

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	ブロック塀新構工法開発小委員会	主 査 名：川上勝弥
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工本委員会 (組積工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2003年04月 ～ 2007年03月	
設 置 目 的 各年度活動計画	ブロック塀は、建築基準法にその最低限の使用が示されているが、設計、施工および耐久性等の観点から、多くの問題が指摘されている。ここでは、現行基準を尊重しつつ、それに拘束されることなく、デザインされた町並みに調和する安全で安心なものとして機能できるブロック塀の新しい構工法について検討する。	
委員構成 (委員名 (所属))	三田紀行 (職業能力開発総合大学校)、石井克侑 (社団法人全国建築コンクリートブロック工業会 (太陽セメント工業株式会社))、岡本公夫 (生活価値創造住宅開発技術研究組合)、斉藤栄三 (社団法人日本建築ブロックエクステリア工事業協会 (株式会社フジアウテック))、阪上進也 (STEP 工法開発機構)、千歩 修 (北海道大学)、根井 浩 (科学技術振興機構)、西山光昭 (日本工業大学)、松村 晃 (神奈川大学)、中岡章郎 (株式会社長谷工コーポレーション)、長谷川直司 (国土交通省国土技術政策総合研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	90,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	開催日は、2004/4/16、2004/5/24、2004/6/18、2004/8/4、2004/10/15、2004/12/17 の 6 回である。各回の参加人数は、平均 9 名である。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1. ブロック塀に関する問題点の絞り込み フェンスの固定脚の納まり／壁頂部フックの納まり／あと施工アンカーの使用／基礎の根入れ深さ、控え壁の形状及び配筋等、土留めを兼ねるブロック塀</p> <p>2. ブロック塀に関する新構工法について 改良鋼管杭基礎 (STEP 工法) について／煉瓦風ブロックを組積した塀について</p> <p>上記のような内容を中心に、審議した。これらの項目は、安全なブロック塀を構築するための技術的要因である。</p> <p>なお、今年度の審議内容は、委員会設置期間における中間期におけるものであり、ホームページ等による公開は控える。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の計画とほぼ一致した進捗状況である。
その他評価すべき事項	本年度は、先の「ブロック塀システム研究小委員会」で作成した「ブロック塀施工マニュアル」の発刊年であり、本委員会において同マニュアルの最終調整並びに講習会を担当した。